

保育所自己評価票

評価日 2024 年 3月 22 日

園名: 花月園前ここわ保育園

【評価方法】 A：十分できている B：できている C：やや改善が必要 D：改善が必要

I 保育の基本的理念と実践

子どもの最善の利益の考慮	評価
・子どもが権利の主体であることを職員一人ひとりが意識・理解している	B
・職員自身の価値観や言動についての省察がなされている	B
・子どもとかかわる際に、それぞれの子どもの思いや願いを受け止めるよう心掛けている	A
・一人ひとりの多様性に配慮した保育を心掛けている	B
・子どもの人権や人格の尊重について、職員が学んだり考えたりする機会や環境がある	A

園の保育理念・保育方針・保育目標について	評価
・職員は園の保育理念、保育方針、保育目標を理解し、かつ課題を共有している	A

保育の内容	評価
(社会的規律)	
・職員は常に公平で温かい態度や言葉遣いで子どもに接し、信頼関係を築くようにしている	B
・一人ひとりの子どもの自主性を尊重し、家庭と連携しながら子どもの状況に応じた対応をしている	A
(表現活動)	
・身近な自然と関わる機会をつくり、子どもの様々な興味を引き出すようにしている	A
・保育士等からの話や、生活や遊びの中での出来事を通して、イメージを豊かにする働きかけをしている	A
(人間関係)	
・子どもが自分の気持ちを安心して表すことができるよう働きかけている	B
・自分の言いたいことが相手に伝わる喜びを味わう体験ができるように配慮している	B
・子どもの発達段階に応じて、見守り、共感、励ましなどやる気を育てるような働きかけをしている	A
(乳児保育)	
・保育指針に示す「乳児保育に関わる配慮事項」を踏まえた保育を行っている	B
・乳児期の発達の特徴を踏まえて、愛情豊かに応答的に関わっている	A
・全職員にSIDSに関する知識が周知され、予防の為の取り組みが行われている	A
(1歳児以上3歳児未満児)	
・保育指針に示す「1歳以上3歳未満児の保育に関わる配慮事項」を踏まえた保育を行っている	B
・子どもの生活の安定を図りながら、自分であろうとする気持ちを尊重し、温かく見守るとともに、愛情豊かに、応答的に関わっている	A

(3歳以上児)	
・保育指針に示す「3歳以上児の保育に関わる配慮事項」を踏まえた保育を行っている	B
・個の成長と集団としての活動の充実が図られている	B
・子どもの生活や発達の連続性を踏まえ、就学に向けて小学校との連携を図っている	A
・「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を理解し考慮している	A
(食育)	
・授乳は一人ひとりの状況に応じて子どもが安心できる環境に配慮している	A
・離乳食は家庭と連携して提供するようにしている	A
・年齢や障がい、疾病等により、食事に特別な配慮を必要とする子どもに対して食事を楽しめる工夫をしている	B
・食育を通して子どもたちが楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫している	A
・子どもが食事を楽しむことができる環境を整えたり、工夫したりしている	A
・旬の物や季節感のある食材を用意し、食文化を伝える工夫をしている	A
(長時間保育)	
・異年齢の子ども同士が遊べるよう配慮している	A
・職員の引継ぎを適切に行っている	B
(特別な支援や配慮を要する子どもへの関わり)	
・環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している	C

養護及び教育	評価
・養護及び教育を一体的に行うことができるように意識し配慮している	B
・養護において「生命の保持」「情緒の安定」2つの側面を理解し心身の健やかな育ちを促している	A
・教育を行う上で3つの資質、能力「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」 学びに向かう力、人間性等」を理解し、一体的に育むよう努めている	A

保育の環境の構成	評価
(人・物・場)	
・健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を作っている	A
・職員全員が、子どもが自発性を発揮できるような働きかけをするように心掛けている	A
・季節感の移り変わりが感じられるような工夫をしている	A
・状況に応じて柔軟に環境の再構成を行っている	B
・安全で活動しやすい環境での探索活動を通して見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きかけを豊かにしている	B
・活動と休息、緊張感と解放感の調和がとれている	B

指導計画	評価
(全体的な計画)	
・全体的な計画における具体的なねらいや内容は、発達過程や年齢個人差を踏まえた内容になるよう工夫している	A
・全体的な計画と指導計画には連動性を持つように指導している	A
(指導案)	
・指導計画に対する評価及び見直し結果は、次の計画作成に活かしている	A
・施設長は、指導計画の評価および見直しにあたり、必要な指導を行っている	A

II 家庭及び地域社会との連携や子育て支援

入所する子どもの家庭との連携と子育て視点	評価
(保護者との連携)	
・家庭の実態や保護者のニーズ、意向等の把握をしている	B
・保護者と子どもの家庭での様子、成長等に関する情報を共有するようにしている	B
・保育参観（参加）を行うなどして、保護者と共通理解を得る機会を設けている	A
・保護者の状況に配慮した個別的な支援を行っている	A
(外国籍の子ども、保護者の支援)	
・その子のペースに合わせて柔軟な保育をしている	C
・読み書きが苦手な保護者には漢字にふり仮名をつける、大事な部分に下線を引くなどの配慮をしている	A

地域の保護者等に対する子育て支援	評価
(子育て支援)	
・園庭開放や絵本の部屋の開放など地域の保護者が足を運びやすいイベントを行い、地域の保護者同士を繋ぐ活動をしている	A

地域における連携・交流	評価
(地域との関わり)	
・小学校児童と保育園児の交流を図ったり、情報交換するなど、小学校との連携体制がある	A
・発達上、課題がみられる子どもとその保護者には、専門機関を紹介し共に支援している	A

III 保育の実施運営・体制全般

組織としての基盤の整備	評価
(組織及び保育の理念、目標、方針とその共有)	
・園長、主任、職員の役割分担と責任が明確にされ、園児や保護者への迅速な対応ができる体制が整っている	B
・職員の勤務状況及び業務の管理状況を把握している	A

社会的責任の遂行	評価
(法令の遵守)	
・施設長は保育所の役割や社会的責任を遂行するために法令等を遵守している	A
・保育業務の中で知り得た子どもや家庭に関する個人情報の守秘義務について、全職員に周知し守られている	A

健康管理及び安全の管理	評価
(保健的環境の整備)	
・子ども一人ひとりの健康、発達状態に関する情報が職員に周知されている	A
・疾病、事故等の発生予防や対応に係る職員間の連携や体制が構築されている	C
・子どもへの身体的暴力、言葉による暴力やネグレクト（育児放棄）など子どもの心身の安全に関わる兆候の早期発見に努めている	A

・日頃から、関係機関と連携を図るための取り組みを行っている (安全の確保)	A
・不審者の侵入を防止するための措置をとり、もしもの場合のマニュアルを作り訓練をしている	A
・施設内外の安全点検に努め、安全対策の為に全職員の共通理解や体制作りを図っている (職員の資質向上)	B
・職員同士が主体的に学び合う姿勢と職場の環境が整えられている	C
・保育の課題や各職員のキャリアパスを見据えて、体系的な研修計画を作成している	B
・園内外の研修機会が確保され、研修の成果の共有・活用がされている	B

○保育実践における保育の気づきと振り返り

・こどもの発達段階やその時々状況に合わせて活動を進めた。活動に対する意欲が感じられない子どもには、無理強いせず次回に延ばすなど、余裕をもって対応することで、子ども自身が気持ちを切り替えることができた。

・幼児は異年齢との活動を多く持ち、互いに憧れたり憧れられたりする存在になった。

・年度初めに、調理の職員と食育についての話し合いを持ち、計画的に色々な活動を行うことが出来た。

・コロナウイルス感染症が落ち着き、年長児は近隣小学校との交流会や近隣の園との交流会等を行うことが出来た。就学に向けた見通しが持て、良い機会となった。

○今後の課題と取り組み

・クラス内での話し合いの時間は持てたが、他のクラスに向けて発信することが難しかった。クラス内での悩みや迷いを話し、助言や意見をもらえる時間や機会を作る。

・食育は、5歳児クラスを対象とした活動が多かったが、他の歳児の子どもたちにも機会を増やしていく。

・地域の子育て家庭に向けて開催した育児講座には、毎回一定数の家庭が来園されたが、育児相談は利用者がいなかった。もう少し、気軽に園に足を運んでいただけるような工夫をしていく。

○今後の目標（園全体で話し合い、目標を決める）

「こどもも大人ものびのびした保育」を目標にする。目標達成の為に、下記の8点をキーワードとし、職員一人ひとりが具体的な行動目標を立てる。

子どもをよく観る・寄り添う・挑戦・表現豊か・安心感・約束・心身の健康・職員の連携